

うさぎこども園 令和6年度 自己評価表

社会福祉法人彩明会 うさぎこども園
作成者：園長 白石亮子

1. 園の保育目標

知・徳・体のバランスのとれた保育

1. 心身ともに健康な子ども 2. 誰とでも仲良くできる子ども 3. 想像力のある子ども

保育姿勢：保育者は子どもとともにあり 人それぞれに花あり

2. 本年度の重点目標

- ・低年齢児や長時間保育児が増えることを踏まえ、子どもが常に安全に生活できるような環境を整える。
- ・生活の場としての役割を踏まえ、子どもの思いを受け止め、安心して過ごせる環境となるよう配慮する。

3. 評価項目の達成及び取組状況【評価 … A：良 B：可 C：要改善 D：非該当】

I. 保育計画の編成と実施に関する評価

項 目			評価	備 考
子どもの発達援助	発達援助の基本	1 指導計画は保育目標に基づき、また子どもの実態に照らして作成されているか。	A	新規採用職員が4名と多かったが、主任が各クラスの保育の様子などよく観察しサポートすることで、より良い保育の提供に取り組んだ。
		2 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定しているか。	B	
		3 子どもの発達や興味関心などの総合的な育ちのようすをよく観察し、保育に活かしているか。	A	
	保育内容	1 子ども一人一人への理解を深め、受容することに努めているか。	A	食育等の諸活動において、達成したい目標についての意識の共有が十分でなかった場面が見られた。「ただやる」のではなく、子どもたちにどんな経験・体験を積んでもらい、それによって何をを目指すのか、も再確認しながら、より充実した活動を展開していきたい。
		2 生活を通して人間関係が育つよう配慮しているか。	A	
		3 身近な自然や社会と関わるような取組みがされているか。	A	
		4 経験から学びを得ることを意識した保育を実践しているか。	B	
		5 様々な表現や創作の活動が自由に体験できるよう配慮されているか。	B	
		6 子どもの人権に十分配慮するとともに互いの違いを認め尊重する心を育てよう配慮しているか。	A	
		7 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。	B	
		8 インクルーシブ教育に努め、障害や特性へ配慮した生活支援や、担当する職員への学びの機会の提供などの環境を整えているか。	A	
	保育環境	1 子どもが心地よく過ごすことのできる環境が整備されているか。	A	自発的な制作等がもっと自由に行えるよう、廃材などについて在庫等の環境をより良く整えたい。
		2 子どもが自発的に活動できる環境が整備されているか。	B	
		3 育ちに合わせた環境構成を意識し、工夫しているか。	A	
	健康・食事	1 登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルを規定して適切に実施しているか。また、マニュアルは職員に周知されているか。	B	保護者へ向けた入園のしおりで体調不良時の対応や登園基準などを明確に告知しておくことで、スムーズな対応が出来るケースがあった。
		2 健康な心身を育むため具体的保健計画を作成し、保育に反映しているか。	B	
		3 感染症への対応はマニュアルを規定しているか。また内容は適切か。	B	
		4 アレルギーをもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っているか。	A	
		5 食事を楽しむことができる工夫をしているか。	A	
	行事	1 行事の種類や実施回数は適切か。	B	コロナ禍を越えた後からこれまで以上に顕著に子どもたちの様子の変化を感じている。いまの子どもたちの暮らしの特徴に応じて、発達の目標を立て、それをどう達成するかという観点で、行事等の活動も引き続き見直していく。
		2 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	B	
		3 発達に合わせ、自主的・実践的な活動になるよう工夫しているか。	A	
		4 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	B	

Ⅱ. 保育の実施を支える諸条件に関する評価

項 目			評価	備 考
運 営	組織・運営	1 管理者およびその他職務リーダー等の責任が明確にされ、リーダーシップを発揮しているか。	A	主任職に就任した職員が、当園で8年間担任を持った経験を活かし、様々な場面でクラス運営や保育の質の向上を支えた。一方で主任のサポートなしには行事等が成立しえなかったような場面もあり、担任職員も含む全員が当事者意識をもって園全体の行事運営等を行っていきけるよう、ビジョンの共有など組織内で縦横の関係性を深めるような取組みも行っていきたい。
		2 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われているか。	A	
		3 役職や職務の割り振り、職員配置などの組織構成は適切か。	B	
		4 職務における役割が明確にされ、園児や保護者へ迅速な対応ができる体制があるか。	B	
		5 全員がそれぞれの職務・役割を全うするよう努めているか。	A	
		6 職員同士が協働しやすい環境が整えられているか。	A	
		7 職員同士が安心して助言や意見を交わせる環境が整えられているか。	A	
		8 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能しているか。	B	
		9 評価結果にもとづき園として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施しているか。	B	
		10 会議を適切に行い、必要な情報を共有できているか。	B	
		11 会議録等は適切に記録・集積されているか。	A	
	職場環境	1 職員が意欲的に働けるような評価の仕組みや環境はあるか。	A	有給休暇を残したまま退職となった職員もいた。有休消化率100%を目指し、業務や人員配置の効率化に取り組みたい。
		2 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場環境づくりに取組んでいるか。	B	
		3 職員の育成や、資質向上を支援する取組を行っているか。	B	
	年齢・クラス別経営	1 学年・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	A	発達の遅れや凹凸が見られる三歳児が多く入園し、活動の内容や目標について生活の様子にに応じてその都度相談・調整しながら保育を進めることが出来た。
		2 学年・クラス目標は、子どもの実態に即して設定しているか。	A	
		3 学年・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。	B	
		4 同年齢及び異年齢児間の関わり合いの機会の充実を図っているか。	A	
		5 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。	B	
		6 評価、資料（諸記録）を集積しているか。	B	
	研究・研修	1 職員の研修ニーズを把握し、適切な研修機会を確保しているか。	B	県社協主催のキャリアアップ研修、県主催の保育士等キャリアアップ研修等、外部研修受講の機会を多く設けることができた。園内研修についても今後充実させたい。
		2 主題は保育目標の具現化につながるものであるか。	B	
		3 研修の計画・運営は適切か。	C	
		4 研究の成果を日常の保育に生かし、子どもの育ちに反映させているか。	B	
		5 各種外部研修会への参加態勢の充実を図っているか。	A	
	情報	1 子どもや保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	A	承諾書様式も新たに作成し今年度より記名押印をいただいている。
		2 個人情報の取扱い方法等について保護者に明示し、承諾を得ているか。	A	
		3 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。	A	
		4 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。	A	
安全・衛生	管理指導	1 避難訓練・各種安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	B	非常用の避難グッズや備蓄について、毎年緊急環境整備費も活用して少しずつ拡充を進めている。食料等については法人本部にも備蓄があるが、園内である程度完結できるように園内にも最低限の物資を備えたい。
		2 日常点検やプール日誌等、必要な様式を整備し適切に管理しているか。	B	
		3 子どもの安全確保のため家庭・地域・関係機関等と連携を図っているか。	B	
		4 事故や災害に備えたマニュアルがあり、全職員に周知されているか。	B	
		5 清潔物と非清潔物の区域分けや管理などは適切に行われているか。	A	
		6 おもちゃや遊具等は適切に清掃されているか。	B	
	施設設備	1 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	B	うさぎ小屋など現状使用していない施設が園庭に残っている。遊具と併せて整理を進めたい。
		2 遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。	B	
		3 防犯に配慮し、必要な設備等を整えているか。	A	

項 目				評価	備 考
開かれた園作り	家庭・地域との連携	1	子どものようすなどについて家庭と情報の相互共有に努めているか。	A	発達の遅れや凹凸が見られる三歳児が多く入園し、日頃のやり取りや、個別の面談など、これまで以上に家庭との連携を図る機会を設けた。進級前には園長も交えて面談し、育ち・発達に向けて個別の目標を立てた。
		2	生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	A	
		3	子どもの発達や育児などについて、保護者と共通理解を得るための機会を設けているか。	A	
		4	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、適切かつ速やかに対処しているか。	A	
		5	保護者や地域と連携した取り組みを実践しているか。	A	
		6	地域社会・学校やその他の施設等との交流をはかっているか。	B	
	子育て支援の推進	1	子育て支援の取り組みを行っているか。	B	今年度も子育て相談の実施に留まった。0歳児向けのベビーマッサージ教室等、よりはばひろい年代の子どもを育てる保護者が繋がれるような取り組みを行いたい。
		2	地域の子育てセンターとして集える場(園庭・保育室)を提供しているか。	B	
		3	園や地域の保護者を対象とした子育てに関する学習機会を設けているか。	C	
		4	職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	B	
		5	医療機関、発達支援センター等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	B	
		6	地域の保育ニーズの把握に努め、事業に反映させているか。	C	
	実習等	1	実習生受入の意義を理解し、その方針を職員へ共有しているか。	A	実習生・ボランティア等の受け入れを積極的に行った。
		2	ボランティアや学生アルバイトの積極的な受入れ等、保育を志す学生への学びの機会の提供に努めているか。	A	
	情報提供	1	運営の透明性を確保する為の情報公開が行われているか。	A	リニューアルしたウェブサイトではCMS機能なども活用してお知らせの発信に努めた。
		2	保護者及び外部への情報提供は、分かりやすく伝える工夫や配慮をし、適切に行われているか。	A	
		3	お便りやウェブサイト、SNS等で施設の情報を発信しているか。	B	
		4	行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。	C	
		5	第三者評価を導入しているか。	C	

4. 総評

新卒職員が4名入職し、フレッシュな顔ぶれと共にスタートした一年だった。その分縦横の関係性や連携を強化しないと円滑に進まない場面もあり、行事などにおいては経験の長い職員の先を見通した計画立てに助けられる等も多かった。また、発達について凹凸のある児童が多く入園したが、「児童本人にとって一番いいことは何なのか？」という観点を最優先に考え、担任と園長とで情報共有をしながらより良い保育の提供を目指した。同法人内の専門職職員にクラス活動の様子を見ていただいて助言を頂くなど、子どもにとってよりよい環境、そして保育者にとっても一人で問題を抱え込まずに安心して働くことができる環境となるよう努めた。次年度は職員の学びの機会もさらに充実させたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
職員間の情報共有	会議録はデスクネットに記録することでアクセスがしやすくなったが、コアタイムのみ勤務の非常勤職員等は会議に出るための時間を勤務中に設けることが特に難しく、情報共有については引き続き課題となっている。出勤のタイムカード打刻時に目の前にある掲示板の掲示物はばっと目に入りやすいなど、アナログな手段が有効な場面もあると考えられるので、場面や対象者に応じて情報共有の為の方法も工夫したい。

以上